



## ①スマート農業に対応したほ場整備

現状と課題	目指すべき姿	スマート農業機械								
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業従事者の高齢化に伴い、今後担い手農家の農地利用面積は増加傾向であり、少数の担い手が農地の大半を耕作する構造へと変化。</li> <li>○ 本県では、ほ場整備済みの平坦地域でも30aを標準区画で整備しており、大型トラクターやロボットトラクター等に対応できる大区画ほ場が少ない状況であり、大型農業機械を効率的に使用できる環境が必要。</li> <li>○ 農道とほ場の間に排水路があり、トラクターは転倒や転落に注意しつつほ場内で回転するため安全で効率的なほ場が必要。</li> <li>○ 集落営農法人や大規模経営体への農地の集積や集約化を促進するため、さらなる作業の省力化と効率化が必要。</li> <li>○ 水田の水管理にも多大な手間を要することから管理者から水管理の省力化が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 大型トラクター、ロボットトラクター等を安全かつ効率的に使用できるほ場の大区画化に取り組むとともに、農業機械の安全性と効率化を図るため、ターン農道に対応した畦畔や排水路の管渠化を実現</li> <li>○ 自動給水システムを導入し、スマートフォン・タブレット等による遠隔操作を行い、ほ場に行く回数を減らし、水管理に係る作業の省力化を実現</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>導入機械名</th> <th>参考価格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 自動給水栓</td> <td>約15万円/個</td> </tr> <tr> <td>○ 基地局 (自動給水栓)</td> <td>約50万円/式</td> </tr> <tr> <td>○ リモコン式自動草刈機</td> <td>約100万円/台</td> </tr> </tbody> </table>	導入機械名	参考価格	○ 自動給水栓	約15万円/個	○ 基地局 (自動給水栓)	約50万円/式	○ リモコン式自動草刈機	約100万円/台
導入機械名	参考価格									
○ 自動給水栓	約15万円/個									
○ 基地局 (自動給水栓)	約50万円/式									
○ リモコン式自動草刈機	約100万円/台									

**スマート農業に対応できる基盤整備** 1ha程度の大区画化が必要



整備前



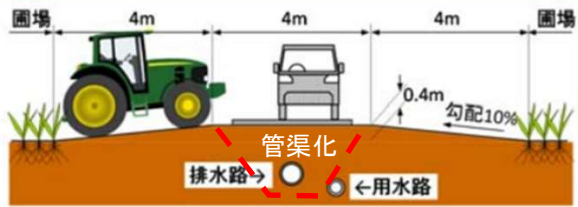
整備後

**大規模なほ場整備に加え、畦畔除去や進入路整備など簡易整備を推進**

- 畦畔除去
- 暗渠排水
- 進入路拡幅
- 農作業道
- 用排水路工

- ・ 農地の区画拡大
- ・ 水田の汎用化
- ・ 農地の集積・集約化
- ・ 農作業の効率化

**ターン農道・管渠化方式導入の検討**



**<効果>**

- 用水路・排水路の管渠化による用地の節約、用排水路管理の合理化、草刈作業等の軽減
- 農道でのターンが可能となり大型トラクターの作業性が向上
- 水路への転落が防止されることによる機械作業の安全性の向上

**水管理省力化**



各ほ場の給排水口の操作に応じて、支線分水配管から自動給水

給排水口を遠隔操作

ほ場に行かなくても、給排水口を遠隔操作できるように！今の時期は水が不足しないよう、給水して給こう！

ほ場内の気温や水位等のデータをスマートフォン等により確認のデータを踏まえ、ほ場への給排水をスマートフォン等で操作

担い手の水管理労力を軽減

スマートフォン  
タブレット

**自動走行農機の導入**



ロボットトラクター



自動走行田植機

**自動給水栓**



担い手不足の解消や生産性向上のためには、「スマート農業」を見据えた1ha区画程度のほ場整備が必要。